

「ルリビタキ」 万博探鳥会案内（2016年12月）

この季節冬鳥が北の繁殖地から渡来し、雪のない大阪近郊で越冬し、4月頃には繁殖地に帰っていく。冬鳥の中で楽しみの一つは、今回紹介する「幸福の青い鳥」ともいえるルリビタキである。ルリビタキは体長14cmとほぼスズメ大、雄成鳥は種名となっている美しい瑠璃色、雌は緑褐色で、何れもヒタキ特有の愛らしい目をしていて、バードウォッチャーに人気の小鳥である。

ルリビタキの雄は年齢とともに色彩が変化する鳥で、今年生まれの雄は雌に似た緑褐色のため、雄雌を断定することが難しく、雌タイプと呼ぶことが多い。2年目になると雄はブルーが増え雌との違いがはっきりし、更に3年目以上になると、写真のように美しい瑠璃色の鳥に変化する。

ルリビタキは夏季にユーラシア大陸の亜寒帯～温帯で繁殖、冬季はユーラシア大陸南部で越冬しており、日本では本州中部以北で繁殖し、冬季になると本州中部以南で越冬する。

ルリビタキは暗い林の下部を好むので、万博公園では樹林の中を流れる水路際などで観察できる。昆虫類や木の実などが餌としており、地表や樹上を移動しながら獲物を捕食する。

ルリビタキの声(地鳴き)は「ヒッ・ヒッ」「カッ・カッ」、ジョウビタキよりやや低音であるが、良く似ていて聞き分けが難しい。11月、渡来してきたばかりの頃の穏やかな小春日和や、春4月頃の渡去直前になると、林の中から「ピチュリ チュリリー」などと複雑な囀りが響いてくる。

今の季節はルリビタキだけでなく、ジョウビタキ・ツグミ・シロハラ・アトリなど北国から越冬に渡ってきた小鳥が多く、落葉樹の葉が落ちて小鳥が見やすくなるので、バードウォッチングが最も楽しい季節。寒い日にはポケットカイロを忍ばせて、愛らしい小鳥たちに会いに行きませんか。

日本野鳥の会大阪支部主催 万博公園定例探鳥会(12月)

万博公園に点在する池でカワセミを楽しみ、シジュウカラ・エナガなど「カラの混群」が通り過ぎる万博公園の林からルリビタキ、そしてジョウビタキの「ヒッ・ヒッ」の声を期待しながら公園内を一巡したいと思っている。

日時 12月10日(土)9:30～15:00

集合 自然文化園中央口

解散 日本庭園の予定

担当 足立道成氏他

持ち物 筆記具・名札・弁当、あれば双眼鏡。

服装 ハイキングと同じ

参加費 大阪支部会員100円、非会員200円

他に万博公園入園料250円が必要

吹田野鳥の会主催

千里緑地探鳥会

昨年まで山田駅から王子池～千里緑地～佐竹台ぼだい池～南千里駅へと一巡したが、今年は11月探鳥会で、ぼだい池を観察したので、今回は第4緑地を中心にコースを半減した。終点は阪急バス佐竹台6丁目バス停付近とし、カワセミやヒドリガモを観察する予定。

日時 12月23日(金祝)9:00～12:00

集合 阪急山田駅1Fバスターミナル

解散 阪急バス佐竹台6丁目バス停付近

担当 安達直樹氏他

持ち物 上記に同じ。但し、弁当は不要

参加費 吹田野鳥の会会員無料、非会員200円

(万博公園入園料不要)



種名 :ルリビタキ

撮影年月日:2015年12月13日

撮影場所 :万博公園

撮影 :有賀憲介